

令和6年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等： 教育

事業担当者の職・氏名： 荒尾浩子

内線電話番号： 9306

電子メール： arao@edu.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内，別に副題を付けても良い）

オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修の実施

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要（簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください）

本教育研修プログラムは、オークランド大学の講義と教育現場の視察からなり、参加学生は、ニュージーランドにおける教育改革、教員の職能開発、および多文化教育に関して学ぶ。海外の教育制度や教育現場の視察は、教員を目指す学生に、自国の教育課題の相対化を通じて視野を拡大する機会となるとともに、主体的学習力の向上や、教育に対するモチベーションを飛躍的に高める機会となる。

(2) 事業の背景・これまでの実績

本事業は、平成 23 年度より実施しているニュージーランドのオークランド大学における教育研修プログラムを継続するものである。平成 27 年度には教育学部との学部間協定が締結され、これまで 3 回、オークランド大学から、講師を招へいし学部間の関係を深めた。令和 6 年度は、第 12 回目の事業実施となる。

(3) 事業実施結果

本事業を通して、異文化に身をおき、異なる学校教育、社会の在り方を知識と共に体験的に学ぶことができ、特に以下 5 つへの意識、能力を高めたと言える。



(4) 事業の意義

本プログラムは全国の教員養成系学部にも例がなく、本学部の特色となるプログラムでもある。海外研修において、英語を使って専門である教育学を学ぶことにより英語力を高めることや視野拡大による教職への動機づけにもなる。参加学生は、学部生や現職教員を含む大学院生であり、各人が教育感に新しい示唆を得ることができる意義深い事業であると言える。

(5) 事業の発展性

研究面において、事業に関わる三重大学教員とオークランド大学教員の間で、比較教育学関するに共同研究を進めていく話し合いもすでに始まっており、今後、研究面での交流も活発化することが期待されている。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

三重大学の国際交流に資する事業である。

令和6年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

令和7年3月1日から17日に「オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修」を実施した。ニュージーランドのオークランド大学教育学部との連携により、現地の学校訪問やオークランド大学教育学部の授業に参加、異文化体験を行う教育研修プログラムである。海外の教育制度や教育現場の視察は、教員を目指す学生に、自国の教育課題の相対化を通じて視野を拡大し、主体的学習力の向上や、教育に対するモチベーションを飛躍的に高める機会となる。本研修の主な目的は以下の2つであった。

①グローバル化社会のための多文化教育（文化に対応した実践）について学ぶ。

① 日本とは異なるタイプの教育システムについて学び、多様な環境で教えることについての学生の見解や考えを広げる。またこの教育研修は、学部の海外教育実地研究A（2単位）、大学院の海外教育特別実地研究（2単位）に充てた。このプログラムは平成23年度から開始し、今回が12回目の現地実施となった。

参加学生は教育学部生6名と教職大学院生6名で、引率教員は教育学部教員2名（英語教育講座、荒尾浩子、理科教育講座、國仲寛人、）共通教育センター（奥田久春）が担当した。1日に中部国際空港を発ち、2日に到着し、オークランド大学シティキャンパスからホストファミリーに迎え入れられた。3日はニュージーランドの教育システムに関する大学の講義を受け、Kohia Terrace Schoolをはじめとする幼、小、中、高の学校を訪問し、校長先生の説明や児童との交流からNZの学校の実態を体験的に学んだ。またオークランド大学の授業に参加したり、特別講義を受講することでNZの教育システムや多文化教育、多文化社会の知識、社会の多様性やそれを反映した学校教育のあり方、個々を尊重し能力を伸長する授業、ICTとアナログ的な活動を融合した教育活動など多くの知識を得ることで教育観を拡充した。ホームステイにより異文化の人々との交流を深め、英語力の必要性を痛感し、コミュニケーション能力を育んだ。

教職に就くうえで広い教育観を持つことは重要である。日本の教育を今後、発展させる上で現状に固執するのではなく異なる文化、教育理念、教育システムを知ることが、柔軟な思考、態度を身に着け、教員としての資質を豊かにすることに繋がった。参加学生はホストファミリーやオークランド大学の先生方や学生、訪問先の学校の児童や生徒と活発に英語で交流を深め、国際交流に資する経験となった。